

日本労働年鑑 第27集 1955年版

The Labour Year Book of Japan 1955

第一部 労働者状態

第四編 労働条件

第三章 労働災害と職業病

第二節 炭鉱の労働災害

炭鉱における労働災害の発生状況を第156表によって他産業と比べてみると、災害件数は全産業の三分の一に近く、その度数率においては他産業のいずれよりも著しく高い。

殊に炭鉱の坑内労働の災害度数率が金属鉱山の坑内におけるそれよりも二倍近い率を示しているのをみても、その危険性の高いことがわかる。強度率でも最高の率を示す。

また、「鉱山災害統計」(通産省鉱山保安局編、一九五三年三月刊)によってみても、一九五三年中の炭鉱における労働災害は回数では前年に比べ減少を示すとはいえおびただしい数に上り、殊に死亡者数の年々の増加が注目される(第158表)。

原因別労働災害の発生状況

一九五三年中における炭鉱の労働災害を原因別にみると第159表の通りで、災害回数の約四割、死亡者の半ば以上は坑内における落盤または側壁の崩壊によるものである。これに次いで比重の大きいのは運搬関係事故で災害回数の約一四%、死亡者の大体二割を占めている。死亡者は少ないが、災害回数でこれに次ぐものは、取扱中の器材鉱物等のため、飛石または転石、工具のため、転倒あるいは落下物または倒壊物等のため等である。

なお、一九五三年中における炭鉱の重大災害は次の通りである。(一四一頁表参照)

日本労働年鑑 第27集 1955年版

発行 1954年11月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2001年10月16日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1955年版(第27集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)